

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200284
法人名	社会福祉法人つつじ会
事業所名	グループホームふれあい ユニット名:平安ユニット
所在地	宮城県石巻市蛇田字小斎1番地1
自己評価作成日	令和4年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和4年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様・ご家族様が安心して生活して頂けるような関わりを心掛け、入居者様一人ひとりの思いに寄り添い、充実した生活を送って頂けるような支援を目指したいと考えています。現在、何の制限もなく自由に面会できる状況下ではないため、ご家族様が来所された際には、近況報告を行い入居者様のご様子を詳細にお伝えできるよう努めております。また、新型コロナウイルスにより買い物や、地域住民とのふれあいは難しくなっておりますが、ホーム内でも楽しめる行事や、密を避けながらドライブ、散歩等をしたりと感染症対策に努めながら楽しんで頂けるよう企画しています。尚、できるだけ在宅から継続している馴染の医師に依頼し健康面のフォローを行って頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは石巻市の西部に位置し、田園に囲まれた閑静な住宅地の一角にある。開設して5年目となる。コロナ禍で地域の行事やホーム行事の参加は途切れている。近所の方から花苗や野菜の差し入れ、草取りの援助などがあり、地域の方が入居の相談に来るなど交流がある。「笑顔で寄り添う」を理念に掲げ、常に入居者を大切に思いケアに努め、入居者は穏やかな生活を送っている。目標のオンラインでの研修は達成し、玄関でのクリアシート越しや居室の窓越し面会を行っており、家族や親類等多数来訪している。ホームで脳トレやレクリエーション、口腔体操などを楽しい1日のスケジュールがあり、日々楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名

グループホーム ふれあい

)「ユニット名

平安」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「笑顔で寄り添い地域とともに」を掲げており、入居者が毎日笑顔で生活できるよう日々努めている。	ホーム開設時の理念を継承し、定期的な職員会議で振り返っている。入居者が不安になっているとき、そばに寄り添って話を聞き、安心につなげている。言うことには否定しないで、いつも笑顔でケアに当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により、地域住民との交流は図れているとは言えないが、地域の方が育てている桜の木の前で花見散歩をしたり、近隣の方から花や野菜を頂いたり、草取りの協力を頂いている。	町内会に加入しているが、コロナ禍で地域行事はなく、ホーム行事への参加もない。近所の方が草花の苗を持って来たり、庭の草取りを手伝っている。入居者が散歩の時、近所の方と親しく挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の入居申込みされているご家族からの相談対応や見学や入居申込みにいらした方にも施設での取り組みなどを紹介している。また、入居者ご家族様が面会にいらした際には現状報告をし、気軽に相談して頂けるよう声掛けを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で日々の活動状況や、新型コロナウイルス感染症対策について報告しつつ、委員の方々からアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。	メンバーに書面で活動内容や入所状況等を年6回手渡しで届けている。意見や要望を返信でもらい次回報告している。「感染対策情報を欲しい」との意見を取り上げ、報告に加えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の活動や取り組みを報告しつつアドバイスを頂き、運営推進委員会でのご意見を取り入れている。	市担当職員が運営推進会議に出席して情報交換やアドバイスをしている。他施設からの入居申し込みのケースで書類の取り扱い等相談した。市の集団指導は、新型コロナウイルス感染予防や対策について行われた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、入居者が外に出る場合は無理に引き留めるようなことはせず、体調に留意しながら一緒に行動をし、見守りしている。また勉強会・内部研修を定期的に行っている。	3か月～4か月に1回、身体拘束・虐待防止委員会で、不適切ケアと予防、高齢者虐待防止法等の勉強会を行っている。欠席者に資料を配布し回覧して周知している。「待って」には優しく理由を説明している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様との関わりの中で、困った事があればその都度、報告・連絡・相談し、会議等の中で話し合う場を設け防止に努めると共に、1人の職員が抱え込む事のないように注意している。また虐待防止の内部研修を行っている。	定期的な勉強会で、虐待につながる不適切ケアについて事例を上げて確認しケアに活かしている。管理者やリーダーは職員の変った様子の時に面談し、意見や不満などを聞き対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会はまだまだ少なく、活用する機会は現状ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書をもとに説明を行い、その都度同意を得ている。契約内容に変更が生じた場合も書面にて説明し承を頂いている。その他に、ご家族様より意見を頂いた場合はその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会をはじめ来所時やケアプラン作成時・担当者会議の際に入居者様の状態を報告し、意見要望を聞いている。また意見・要望があった場合には法人本部とも連携をとり反映するように努めている。	通院や面会、支払い等で家族が来訪しており、その際に意見や要望を聞いている。面会の希望が多く、オンラインや玄関でクリアシート越し面会を実現した。最近では感染対策で居室での窓越し面会を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝の申し送りにて職員から意見や提案を出してもらい、出来ることから計画・実行をしている。また相談があった場合には時間を設けている。	入居者のケアについての意見が多い。退院後にオムツ使用の方をトイレでの排泄に変える意見や、車いすごと量れる体重計の購入要望がある。年次有給休暇は希望通り取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与は職員給与等支給規則に準じ、職員の労働時間は職員就業に準じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部研修が難しくなっているため、内部研修・勉強会を行うようにしている。またオンライン研修が行えるよう整備し参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員数が少なくネットワークづくりをする機会を設けることが難しく、サービス向上を指せる取り組みは行っていない。	法人の管理者会議で、運営方針や新型コロナウイルス感染症対策等を職員に伝えている。11月の管理者・リーダー研修には参加を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査や、これまで関わってきた関係者から情報提供や、ご家族様に記入して頂いたバックグラウンドアセスメントシートを基に、環境(関わる人々と生活していく場所)に慣れて頂きながら少しずつ信頼関係を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時から、ご家族様と連絡を密に取り、入居後も面会時や電話等にてこまめに様子を報告し、ご家族様の想いや意見・要望を聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に暫定ケアプラン、もしくは関係者間で十分な話し合いの場を持った場合にはケアプランを交付し、本人と家族等に必要な支援を常に検討していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃・家事等、共に行い時間の共有を心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様・ご家族様・職員間での信頼関係を築きつつ、共に入居者様と一緒に支えていけるよう関係性の構築に努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご本人様からの情報を基に、馴染みの人や場所(理美容室等や線香あげや墓参り等)へは、ご本人様、ご家族様の要望にできる限り応えられるよう、ご家族様に支援の協力を頂いており、事業所でも可能な限り対応に努めている。	家族の協力を得て自宅で親類や知人と会ったり、墓参り等している。馴染みの理美容室に通っている方もいる。入居者が近くのスーパーやコンビニに買い物に行きたいことを家族と相談して職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮しながら共有スペースでのテーブル席を考慮し、入居者様が孤立せず関係性を築き保てるよう職員が必要時に仲介支援おこなっている。またレクリエーションや行事などで入居者様同士の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には必要に応じて支援している。また退居時には、当事業所でお力添えできることがあれば、お気軽にお申し付けくださいとお声掛けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがどのような暮らしがしたいのか、希望や、意向を丁寧に聞き取りを行うよう努めている。普段からのコミュニケーションをとるなかで、本人様の意向を確認できるように努めている。	入居時の本人の背景をケアに活かしている。庭いじりの好きな方に花植えや手入れを楽しんでもらっている。意思表示の難しい方には側で話を聞き取り等表情で汲み取り、歩行や体を動かす支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査、ご家族様、ご本人様からの情報を基に、馴染の暮らし方や生活環境をホームの暮らしに反映し継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅での生活を基盤とし、ご自身で決めたり、できる事は自身で行って頂くよう努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアを行う職員は、一人ひとりに親身に関わり、その情報も担当者会議やユニット会議で話し合い、プランに反映している。内容は家族様にも説明を行っている他、状態が変化した時にも随時見直している。	毎月、入居者・ケアマネ・担当でモニタリングし6か月毎に家族の承諾を得て見直している。骨折後退院した入居者に、手引歩行訓練やリハビリパンツから布パンツに変える計画に入れ支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目ごとに記録を付け、職員間での情報の共有、毎日の申し送りでの話し合いの他、ユニット会議や全体会議でも話し合いの場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望のあったものに関しては検討し、ニーズの充足に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商業施設を利用して買い物などに出掛けていたが現在コロナウイルスの感染拡大の影響により行えていない。コロナ禍によりできることも限られているが、近隣の散歩や状況に応じて花見等の外出行事を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅から継続している馴染みの医師に依頼している。	入居前からのかかりつけ医に家族の協力で通院している。月1回訪問診療を利用している方もいる。緊急時は主治医と相談して対応している。月4回の訪問歯科と週1回歯科衛生士の口腔指導を利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働は行っておらず、入居者様に異変が見られた場合には、状態に応じて主治医や、ご家族様に報告・連絡・相談し、主治医の指示に従い通院等を行っている。緊急時には救急搬送の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については双方サマリーを準備し、双方向良好な関係性が保てるよう支援する他、必要時等には電話連絡にて対応している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期介護に関しては導入しておらず、ご家族様へは、現時点で出来る事・出来ない事をお伝えし、同意を得ながら支援を行っている。	入居時に看取りは行っていないことを説明して同意を得ている。容態が変わった場合に、医師の説明を受け家族と相談して医療を受けるか施設を変えるか継続してケアを受けるか等を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しているが全体として訓練まで行っていないが、外部の救急救命講習に何名かではあるが研修に参加している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震想定訓練の他、水害や原発防災訓練も実施しているが、地域との協力体制を築くところには至っていない。	年2回夜間火災を想定して訓練を実施した。近隣の特養から応援の職員が参加した。歩行困難な方も車いすで避難した。避難確認の表札がなかなか外せなかった等の反省があった。住民の参加は見合わせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう自己決定と尊厳を大切にし、相手の立場にたった対応を心掛けている。	呼び方は「さん付け」だが家族からちゃんと呼んでの方には対応している。入居者に目の高さに合わせ笑顔で丁寧に話し、トイレへは周囲にわからないよう誘導している。入浴は希望で同性介助にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望・要望などを聞き、出来るだけ想いに添えられるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを大まかに決めており日々、入居者様の状況に合わせて時間が流れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみに関しても常に気を付け、乱れている場合はさりげなく声掛けを行い、必要時には促しや必要な個所の一部介助を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を提供したり、食事の準備は残存機能に合わせて、準備・調理・配膳・片付けと役割があり、協力して実施している。	献立は法人栄養士が行い、材料は配食業者を利用している。月1回の行事食や誕生日祝いには、好きなメニューが提供される。おはぎや味噌ラーメン、寿司などが喜ばれる。おやつは焼き芋作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており、バランスは保たれている。必要時には栄養補助食品を提供している。食事形態に関してもその方に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより自立または一部介助にて行って頂いており、口腔ケア物品の清潔にも務めている。また毎日、昼食前に口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄パターンの把握に努めている。誘導時間もご本人様の状況に合わせて行っている。	自立の方は4名で他はパッド使用や排泄後の確認、オムツである。訴えない方や落ち着かない方等排泄表で誘導し、ほぼ全員トイレで排泄している。夜間は見守り、声がけやオムツ交換の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが困難な方は雇い付けの医師と相談し下剤を服薬して頂いているが、散歩や腹部マッサージ、水分を多めに摂取して頂き便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回は入浴出来る様、声掛けし対応に努めている。また入浴の気分がのらない場合は無理強いをせず翌日に入ってもらっている。	1日3人、午後週2回のペースで入浴している。会話を楽しむ方と家族の話等を聞いている。湯温や量は好みに合わせている。重度の方は2人介助で足浴やシャワー浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごされている方がほとんどで、夜間帯は良眠されている。状況により日中も休める時間帯を確保し居室で過ごされている時間は、定期的に巡視し、掛物調整や室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援チェック表を用いて飲み忘れ防止を図っている。また薬剤の変更があった際にはケース記録と申し送りをし、薬剤表を個人ファイルにとじ、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の定着が難しい入居者様へのアプローチが課題となっている。嗜好品等の購入に関しては自ら選んで頂き、可能であれば精算も行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり、状況に応じて馴染みの場所へドライブをしたりとコロナ禍による密をさけながら外出を行っている。またご家族様にも協力して頂き、馴染みの雇い付け医への通院の依頼をしている。	春は日和山や専修大学の花見に出かけた。近くのスーパーやコンビニの買い物に出掛けている。敷地内や周辺の道路を車いすの方も散歩している。スロープを歩くことや洗濯物を干すなど、外で体を動かすよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金庫で保管管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合に電話をお貸ししたり、本人様が入居時に持参された携帯電話で自由にご家族様と連絡のやりとりをされている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時間帯により照明・室温調整をしたり季節感のある装飾を行っている。	キッチン・リビングは広く、窓から日が差し込み明るい。天井から折り鶴が下がり、壁に皆で作ったコスモスの貼り絵や行事の写真が飾られている。脳トレや数字合わせ等毎日のレクリエーションを楽しみ、余暇は自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は常に気の合う者同士で過ごせるよう配慮しているが、一人になれる場所がないため、一人になりたい場合には自室で過ごされている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に安心して頂けるよう馴染みの物や、使い慣れた物を持参して頂き使用している。	ベッドやチェスト、エアコン、カーテンが備えてある。位牌や遺影を置いている方やイスやテレビ、ラジオ等使い慣れた物を持ち込んでいる。テレビを見たり昼寝、衣装類の片付けをする等自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	管内はバリアフリーで手すりもついている。また、浴室やトイレにも手すりがついている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200284
法人名	社会福祉法人つつじ会
事業所名	グループホームふれあい ユニット名:一路ユニット
所在地	宮城県石巻市蛇田字小斎1番地1
自己評価作成日	令和4年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.jp/">http://www.kaiakensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和4年9月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様・ご家族様が安心して生活して頂けるような関わりを心掛け、入居者様一人ひとりの思いに寄り添い、充実した生活を送って頂けるような支援を目指したいと考えています。現在、何の制限もなく自由に面会できる状況下ではないため、ご家族様が来所された際には、近況報告を行い入居者様のご様子を詳細にお伝えできるよう努めております。また、新型コロナウイルスにより買い物や、地域住民とのふれあいは難しくなっておりますが、ホーム内でも楽しめる行事や、密を避けながらドライブ、散歩等をしたりと感染症対策に努めながら楽しんで頂けるよう企画しています。尚、できるだけ在宅から継続している馴染の医師に依頼し健康面のフォローを行って頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは石巻市の西部に位置し、田園に囲まれた閑静な住宅地の一角にある。開設して5年目となる。コロナ禍で地域の行事やホーム行事の参加は途切れている。近所の方から花苗や野菜の差し入れ、草取りの援助などがあり、地域の方が入居の相談に来るなど交流がある。「笑顔で寄り添う」を理念に掲げ、常に入居者を大切に思いケアに努め、入居者は穏やかな生活を送っている。目標のオンラインでの研修は達成し、玄関でのクリアシート越しや居室の窓越し面会を行っており、家族や親類等多数来訪している。ホームで脳トレやレクリエーション、口腔体操などを楽しい1日のスケジュールがあり、日々楽しく過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム ふれあい** )「 **ユニット名 一路** 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「笑顔で寄り添い地域とともに」を掲げており、入居者が毎日笑顔で生活できるよう日々努めている。	ホーム開設時の理念を継承し、定期的な職員会議で振り返っている。入居者が不安になっているとき、そばに寄り添って話を聞き、安心につなげている。言うことには否定しないで、いつも笑顔でケアに当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により、地域住民との交流は図れているとは言えないが、地域の方が育てている桜の木の前で花見散歩をしたり、近隣の方から花や野菜を頂いたり、草取りの協力を頂いている。	町内会に加入しているが、コロナ禍で地域行事はなく、ホーム行事への参加もない。近所の方が草花の苗を持って来たり、庭の草取りを手伝っている。入居者が散歩の時、近所の方と親しく挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の入居申込みされているご家族からの相談対応や見学や入居申込みにいらした方にも施設での取り組みなどを紹介している。また、入居者ご家族様が面会にいらした際には現状報告をし、気軽に相談して頂けるよう声掛けを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で日々の活動状況や、新型コロナウイルス感染症対策について報告しつつ、委員の方々からアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。	メンバーに書面で活動内容や入所状況等を年6回手渡しで届けている。意見や要望を返信でもらい次回報告している。「感染対策情報を欲しい」との意見を取り上げ、報告に加えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の活動や取り組みを報告しつつアドバイスを頂き、運営推進委員会でのご意見を取り入れている。	市担当職員が運営推進会議に出席して情報交換やアドバイスをしている。他施設からの入居申し込みのケースで書類の取り扱い等相談した。市の集団指導は、新型コロナウイルス感染予防や対策について行われた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、入居者が外に出る場合は無理に引き留めるようなことはせず、体調に留意しながら一緒に行動をし、見守りを行っている。また勉強会・内部研修を定期的に行っている。	3か月～4か月に1回、身体拘束・虐待防止委員会で、不適切ケアと予防、高齢者虐待防止法等の勉強会を行っている。欠席者に資料を配布し回覧して周知している。「待って」には優しく理由を説明している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様との関わりの中で、困った事があればその都度、報告・連絡・相談し、会議等の中で話し合う場を設け防止に努めると共に、1人の職員が抱え込む事のないように注意している。また虐待防止の内部研修を行っている。	定期的な勉強会で、虐待につながる不適切ケアについて事例を上げて確認しケアに活かしている。管理者やリーダーは職員の変った様子の時に面談し、意見や不満などを聞き対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会はまだまだ少なく、活用する機会は現状ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書をもとに説明を行い、その都度同意を得ている。契約内容に変更が生じた場合も書面にて説明し了承を頂いている。その他に、ご家族様より意見を頂いた場合はその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会をはじめ来所時やケアプラン作成時・担当者会議の際に入居者様の状態を報告し、意見要望を聞いている。また意見・要望があった場合には法人本部とも連携をとり反映するように努めている。	通院や面会、支払い等で家族が来訪しており、その際に意見や要望を聞いている。面会の希望が多く、オンラインや玄関でクリアシート越し面会を実現した。最近では感染対策で居室での窓越し面会を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝の申し送りにて職員から意見や提案を出してもらい、出来ることから計画・実行をしている。また相談があった場合には時間を設けている。	入居者のケアについての意見が多い。退院後にオムツ使用の方をトイレでの排泄に変える意見や、車いすごと量れる体重計の購入要望がある。年次有給休暇は希望通り取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与は職員給与等支給規則に準じ、職員の労働時間は職員就業に準じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部研修が難しくなっているため、内部研修・勉強会を行うようにしている。またオンライン研修が行えるよう整備し参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員数が少なくネットワークづくりをする機会を設けることが難しく、サービス向上を指せる取り組みは行っていない。	法人の管理者会議で、運営方針や新型コロナウイルス感染症対策等を職員に伝えている。11月の管理者・リーダー研修には参加を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査や、これまで関わってきた関係者から情報提供や、ご家族様に記入して頂いたバックグラウンドアセスメントシートを基に、環境(関わる人々と生活していく場所)に慣れて頂きながら少しずつ信頼関係を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時から、ご家族様と連絡を密に取り、入居後も面会時や電話等にてこまめに様子を報告し、ご家族様の想いや意見・要望を聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に暫定ケアプラン、もしくは関係者間で十分な話し合いの場を持てた場合にはケアプランを交付し、本人と家族等に必要な支援を常に検討していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃・家事等、共に行い時間の共有を心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様・ご家族様・職員間での信頼関係を築きつつ、共に入居者様と一緒に支えていけるよう関係性の構築に努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご本人様からの情報を基に、馴染みの人や場所(理美容室等や線香あげや墓参り等)へは、ご本人様、ご家族様の要望にできる限り応えられるよう、ご家族様に支援の協力を頂いており、事業所でも可能な限り対応に努めている。	家族の協力を得て自宅で親類や知人と会ったり、墓参り等している。馴染みの理容室に通っている方もいる。入居者が近くのスーパーやコンビニに買い物に行きたいことを家族と相談して職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮しながら共有スペースでのテーブル席を考慮し、入居者様が孤立せず関係性を築き保てるよう職員が必要時に仲介支援おこなっている。またレクリエーションや行事などで入居者様同士の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には必要に応じて支援している。また退居時には、当事業所でお力添えできることがあれば、お気軽にお申し付けくださいとお声掛けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがどのような暮らしがしたいのか、希望や、意向を丁寧に聞き取りを行うよう努めている。普段からのコミュニケーションをとるなかで、本人様の意向を確認できるように努めている。	入居時の本人の背景をケアに活かしている。庭いじりの好きな方に花植えや手入れを楽しんでもらっている。意思表示の難しい方には側で話を聞き傾き等表情で汲み取り、歩行や体を動かす支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査、ご家族様、ご本人様からの情報を基に、馴染の暮らし方や生活環境をホームの暮らしに反映し継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅での生活を基盤とし、ご自身で決めたり、できる事は自身で行って頂くよう努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアを行う職員は、一人ひとりに親身に関わり、その情報も担当者会議やユニット会議で話し合い、プランに反映している。内容は家族様にも説明を行っている他、状態が変化した時にも随時見直している。	毎月、入居者・ケアマネ・担当でモニタリングし6か月毎に家族の承諾を得て見直している。骨折後退院した入居者に、手引歩行訓練やリハパンツから布パンツに変える計画に入れ支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目ごとに記録を付け、職員間での情報の共有、毎日の申し送りでの話し合いの他、ユニット会議や全体会議でも話し合いの場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望のあったものに関しては検討し、ニーズの充足に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商業施設を利用して買い物などに出掛けていたが現在コロナウイルスの感染拡大の影響により行えていない。コロナ禍によりできることも限られているが、近隣の散歩や状況に応じて花見等の外出行事を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅から継続している馴染みの医師に依頼している。	入居前からのかかりつけ医に家族の協力で通院している。月1回訪問診療を利用している方もいる。緊急時は主治医と相談して対応している。月4回の訪問歯科と週1回歯科衛生士の口腔指導を利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働は行っておらず、入居者様に異変が見られた場合には、状態に応じて主治医や、ご家族様に報告・連絡・相談し、主治医の指示に従い通院等を行っている。緊急時には救急搬送の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については双方サマリーを準備し、双方向良好な関係性が保てるよう支援する他、必要時等には電話連絡にて対応している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期介護に関しては導入しておらず、ご家族様へは、現時点で出来る事・出来ない事をお伝えし、同意を得ながら支援を行っている。	入居時に看取りは行っていないことを説明して同意を得ている。容態が変わった場合に、医師の説明を受け家族と相談して医療を受けるか施設を変えるか継続してケアを受けるか等を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しているが全体として訓練まで行っていないが、外部の救急救命講習に何名かではあるが研修に参加している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震想定訓練の他、水害や原発防災訓練も実施しているが、地域との協力体制を築くところには至っていない。	年2回夜間火災を想定して訓練を実施した。近隣の特養から応援の職員が参加した。歩行困難な方も車いすで避難した。避難確認の表札がなかなか外せなかった等の反省があった。住民の参加は見合わせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう自己決定と尊厳を大切にし、相手の立場にたった対応を心掛けている。	呼び方は「さん付け」だが家族からちゃんと呼んでの方には対応している。入居者に目の高さに合わせ笑顔で丁寧に話し、トイレへは周囲にわからないよう誘導している。入浴は希望で同性介助にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望・要望などを聞き、出来るだけ想いに添えられるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを大まかに決めており日々、入居者様の状況に合わせて時間が流れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみに関しても常に気を付け、乱れている場合はさりげなく声掛けを行い、必要時には促しや必要な個所の一部介助を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を提供したり、食事の準備は残存機能に合わせ、準備・調理・配膳・片付けと役割があり、協力して実施している。	献立は法人栄養士が行い、材料は配食業者を利用している。月1回の行事食や誕生日祝いには、好きなメニューが提供される。おはぎや味噌ラーメン、寿司などが喜ばれる。おやつ焼き芋作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており、バランスは保たれている。必要時には栄養補助食品を提供している。食事形態に関してもその方に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより自立または一部介助にて行って頂いており、口腔ケア物品の清潔にも務めている。また毎日、昼食前に口腔体操を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄パターンの把握に努めている。誘導時間もご本人様の状況に合わせて行っている。	自立の方は4名で他はパッド使用や排泄後の確認、オムツである。訴えない方や落ち着かない方等排泄表で誘導し、ほぼ全員トイレで排泄している。夜間は見守り、声がけやオムツ交換の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが困難な方は糞り付けの医師と相談し下剤を服薬して頂いているが、散歩や腹部マッサージ、水分を多めに摂取して頂き便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回は入浴出来る様、声掛けし対応に努めている。また入浴の気分がのらない場合は無理強いをせず翌日に入ってもらっている。	1日3人、午後週2回のペースで入浴している。会話を楽しむ方と家族の話等を聞いている。湯温や量は好みに合わせている。重度の方は2人介助で足浴やシャワー浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごされている方がほとんどで、夜間帯は良眠されている。状況により日中も休める時間帯を確保し居室で過ごされている時間は、定期的に巡視し、掛物調整や室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援チェック表を用いて飲み忘れ防止を図っている。また薬剤の変更があった際にはケース記録と申し送りをし、薬剤表を個人ファイルにとじ、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の定着が難しい入居者様へのアプローチが課題となっている。嗜好品等の購入に関しては自ら選んで頂き、可能であれば精算も行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり、状況に応じて馴染みの場所へドライブをしたりとコロナ禍による密をさけながら外出を行っている。またご家族様にも協力して頂き、馴染みの糞り付け医への通院の依頼をしている。	春は日和山や専修大学の花見に出かけた。近くのスーパーやコンビニの買い物に出掛けている。敷地内や周辺の道路を車いすの方も散歩している。スロープを歩くことや洗濯物を干すなど、外で体を動かすよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金庫で保管管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合に電話をお貸ししたり、本人様が入居時に持参された携帯電話で自由にご家族様と連絡のやりとりをされている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時間帯により照明・室温調整をしたり季節感のある装飾を行っている。	キッチン・リビングは広く、窓から日が差し込み明るい。天井から折り鶴が下がり、壁に皆で作ったコスモスの貼り絵や行事の写真が飾られている。脳トレや数字合わせ等毎日のレクリエーションを楽しみ、余暇は自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は常に気の合う者同士で過ごせるよう配慮しているが、一人になれる場所がないため、一人になりたい場合には自室で過ごされている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に安心して頂けるよう馴染みの物や、使い慣れた物を持参して頂き使用している。	ベッドやチェスト、エアコン、カーテンが備えてある。位牌や遺影を置いている方やイスやテレビ、ラジオ等使い慣れた物を持ち込んでいる。テレビを見たり昼寝、衣装類の片付けをする等自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	管内はバリアフリーで手すりもついている。また、浴室やトイレにも手すりがついている。		